



学校と家庭が連携して、道徳教育を推進していきたいと思ひます。  
学校で行った道徳の授業についてお知らせいたします。家庭で話し合つてほしいことをもとに、お子様といろいろな話をして下さい。  
また、保護者の皆様の経験にもとづく話もできればとてもよいと思ひます。  
よろしくお願ひいたします。

## ★資料名

「がっこうにはね」

## ★今回の道徳の授業のねらい

日頃自分たちの学校生活を支えてくれたり助けてくれたりしている人々に感謝し、自分ができることをしようとする心情を育てます。

## ★お話のあらすじと学習内容

登場人物の1年生のぼくは、生活科の学校探検で学校の人たちの様子を見て、自分が多くの人たちにお世話になっていることに気づくという教材です。この教材をもとに、子どもたちは担任以外の人たちの仕事を知り、その一つ一つが自分たちのためになされていることに気づきます。学校や社会の中で、自分たちのために一生懸命働いてくれる人たちの苦勞や気持ちなどを考え、心から素直に感謝の気持ちを表すことができるようにしたいと思ひます。この学習の振り返りで、子どもたちはお世話になっている人たちに手紙を書き、その気持ちを表しました。

## ★子どもたちの授業の振り返り

- ・大岡先生、いつも体育の勉強を教えてくれてありがとう。
- ・調理員さん、いつも給食を作ってくれてありがとう。
- ・(6年生の) やまとさん、遊んでくれてありがとう。
- ・校長先生、いつも交通安全とかを教えてくれてありがとう。
- ・(5年生の) あこさん、いつも遊んでくれてありがとう。

## ★家庭で話し合つてほしいこと

学校探検のことや学校で働いている人たちのことを、ご家庭においても聞いてあげてください。子どもたちは目を輝かせて報告します。

また、子どものために一生懸命努力している家族がいることも話してあげてください。「生まれたとき、お父さんはうれしくて、家の中をスキップして喜んだよ。」とか、「お母さんは、熱が下がらないとき、一晩じゅう頭を冷やしたよ。」など、わが子をだいに思うエピソードも添えると、いっそう効果的です。そのようなことを通して、お世話になっている多くの人たちに感謝をする、心の温かい子どもになってくれると思ひます。